

阪神支部第61回定期大会



2024. 10. 28
NO. 681号

全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27

06-6574-8424
078-303-0800

10月5日・6日の2日間にわたり、阪神支部第61回定期大会がホテルフルーツフラワーで開催されました。

議長団には菱倉運輸分会の篠崎代議員と三協運輸分会の菅代議員を選出し、代議員と委任状を合わせ定数の72名。執行部・来賓・傍聴を合わせて71名。全体で143名の参加報告があり、大会が成立していることが確認されました。

政党・候補者をしっかりと見極めよう

開会に先立ち井ノ元副委員長は「政治は私たちの生活に直結している。昨今の政治は私利私欲、党利党略が長きにわたり続き劣化してきた。食料自給率も38%となり、輸入依存の食糧政策では供給が途絶えると瞬く間に干あがってしまう。どの政党、候補者が私たち国民、労働者にとって平和で安心して暮らせる社会を構築できるかしっかりと見極めよう」と近々に迫る兵庫県知事選挙、解散総選挙が重要な選挙であることを訴えました。

政治による労働者間の格差を問題視



支部を代表してあいさつに立った河野委員長は、23年度を振り返り「特に物価上昇が大きかった。大企業の労働者を主体とする連合では30年ぶりの高水準だった。一方、阪神支部においては昨年の水準を上回ったものの、全く実感がなく組合員にとって見える春闘ではなかった」とし、さらに「莫大な利益を上げている大企業では、人材を確保するために労働組合が要求する賃上げを上回る回答をする企業もある。また新入社員の新給を30万円に引き上げる企業など、言い方は悪いが『金にものを言わせる』というような状況も見受けられた。賃金をシグナルとした円滑な労働移動といえは聞こえが良いが、労働者が賃金の高い産業や企業に移っていくだけであり、賃金が高い産業、企業は生産性も高い前提のもと、このような労働移動を円滑化することによって、生産性の低い企業が淘汰され、日本全体の生産性が高まることだが、私たち

が働く会社も含め、日本の企業の99・7%が中小零細企業である。選択肢がない労働者はどうするのか。パート、アルバイト、シングルマザー、年金生活者などは見捨てようとしているのか。冷や飯を食べざるを得ない人たちはたくさんいる」と労働者間の格差について問題視しました。

大阪万博による早朝ゲートオープンは全額公費負担が前提



関西地本を代表してあいさつに立った畠山地本委員長は、来年開催される大阪関西万博について触れ、「大阪港湾局は海コン搬出入の渋滞対策として待機レーンを増設し、幹線道路に影響がないよう対応をしているが、再度内閣官房からの渋滞対策の要請が港湾局にあったと聞いた。大港労働協では港湾労働者の長時間労働に繋がらないように条件を付けているが、DICの取扱量が減少しているため幹線道路に海コン車両は並ばないことを予測している。早朝ゲートオープンについては、費用を全額公

費負担であれば開催日翌日から応じる可能性はある」としました。

その他に「飲酒運転」に対する行政処分の強化。名古屋港での返却コンテナの洗浄問題、下請代金支払遅延等防止法（下請法）の改正について解説しました。

大幅賃上げが1丁目1地番地であったが



では「春闘アンケートに基づいたもので、人員不足の深刻化は専業・関連から出ており、特に六大港から『休みたいのに休めない』など疲弊の声が出てきている」と経緯を説明しました。

中央本部を代表してあいさつに立った松永中央本部書記長は、24春闘について

総括し、「全港湾統一要求額3万円に対し、全国平均8,011円だった」とし

「全港湾の24春闘は失敗だったと言わざるを得ない。また初任給も20万200円を全国要求としたが、各地本・支部のストライキへの相談もなく、意志や反応は弱く、全港湾はいつの間にか企業内組合となりつつある。戦術にはより一層の工夫がいる。全国の各地本・支部の知恵を結集してたたかわなければならず、今後の春闘に向けて提起したい」と述べました。

また産別要求の月一回の不稼働日、休日完休につい

ては「春闘アンケートに基づいたもので、人員不足の深刻化は専業・関連から出ており、特に六大港から『休みたいのに休めない』など疲弊の声が出てきている」と経緯を説明しました。

大会二日目に入り、質疑討論（発言は2面参照）がされたほか、日興サービズ分会から指定事業体問題の経過説明があり、「日本港運協会の責任において協定履行に向けて全国港湾と共に25春闘までに決着したい」と決意を述べました。

2024年秋年末闘争について具体化され、冬季一時金支部統一要求額を95万円、支払日を12月10日とし、支部集団交渉日程が全会一致で承認されました。

特別決議案「港湾を兵站基地にするな！今こそ世界平和と港の安全を希求する」 「港の物流を滞らせず、万博・カジノに港湾労働者の職域を侵害させない」の2本が提案され、満場一致で承認されました。

また執行部の役員改選では2名が退任され、定数減のまま24年度の執行部体制が再任されました。

議事を滞りなく終え、松本副委員長の開会あいさつが行われ、最後に河野委員長の団結ガンバローで散会しました。

執行委員 鈴木 大介

大会 発言



昨今の夏は熱中症警戒アラートや不要な外出自粛のニュースが出て、危険な夏となっている。

それでも我われ労働者は働かなければならない。猛暑手当や暑さ手当などの要求を挙げていただきたい。

実際に建設業では猛暑手当などが実施されているので考えてほしい。

また、春闘の日程について、24春闘では地本交渉と支部交渉の間の期間が週末しかなく、交渉を進め辛い分会もあったのではないだろうか。24春闘では間を長くして欲しい。

後藤回漕店分会

先野 圭介



組織拡大について、以前よりSNSの活用を提案しているが、議案書に載っていない。従来の「つながり」を求めるやり方も大切

だと思うが、昨今ではスマートフォンを使用していることが多いのでSNSの活用が有用ではないかと思う。

組合員数が増えない現状を打破するためにも新しいことへの議論や行動をすることが重要ではないか。

また、運用の人手が不足であるならば外部委託も視野に入れてもよいのではないか。

インターネットに情報を残すことが大事であると考えているので早ければ早いほどいいと思っています。

後藤回漕店分会

神田 光祐



日港協と全国港湾および

港運同盟の協定書内にある13条「全貨検定」の運賃同盟がともに機能しておらず、検定部会が声を挙げていない現状がある。それとSNSの活用について、阪

神支部やそれ以外の団体の活動をインターネットで見ることが多いが、誹謗中傷やでたらめの情報が多い媒体もあるので注意したほう

がよいのではないか。シンケン分会

萩原 幸一



阪神支部として2025年の春闘をどのような形でたたかっていくのか教えていただきたい。

日本コンテナ輸送分会

退任 挨拶



2年前に支部の副委員長を退任し、特別執行委員として港湾共闘の議長を務めてきました。無事、今年3月に代表者会議において阪神支部の鈴木執行委員に議長を交代しました。

今後は12月から神戸事務所

の職員として入ることになっていきます。特別執行委員は2年間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

谷口 利之

三四労学習会「給与明細の見方とサラリーマン増税」 給料?・給与?・賃金?・控除? 知ってほしいポイント...



学習に取り組む三四労部会員

「与え給われるもの」を意味し、古くは殿様から家臣に与えられるものでした。そうした意味合いがあることから我われ労働組合では給料も給与もひっくり返して「賃金」と呼ぶのが一般的です。

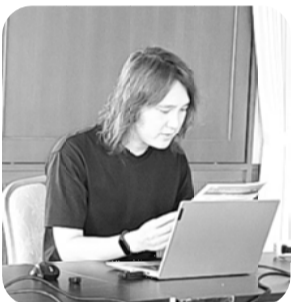
賃金明細には支給されたものだけでなく、控除されるものも記載されます。所得税や社会保険料が引かれるわけ

です。社会保険料は厚生年金・健康保険・雇用保険のいわゆる3保険からなり、40歳になるとそこに介護保険が加わります。

雇用保険制度は令和6年4月から改正され、増額されていきますので再度見直しみてください。賃上げをしたはずなのにあまり増えていない気がするのはいかにせいかもありません。

ほかに在宅勤務という言葉が定着してきた今日では通勤手当がなくなつた分、在宅勤務手当をとってはどうか。4月から6月はあまり残業しないほうが保険料率はお得になる。退職した翌年の住民税に注意。

などの知識からサラリーマン



菅沼執行委員

まず、働いて得たお金は給料や給与と呼ばれますが、違いを知っているでしょうか。給料は基本給のこと

増税の歴史やその要因まで幅広く学びました。入社当初などは手取りしか気にしていなかったけど、年齢を重ねるにつれてほかの部分も気になりだした。あれ、おかしいところが。組合に相談してみよう」と思った覚えがあると

みんなも改めて自分の賃金明細に記載されている内容と向き合い、調べてみるのいいかもしれません。副委員長 道下 拓也

第47回 神戸港湾定期大会 防衛費強化の増税は許せない 雇用と職域を守る運動を展開



あいさつに立つ吉岡議長

田代議員と全日通の前川代議員が選出され、その後の議事を進めました。

代表あいさつで吉岡議長は「コロナ前の生活が戻りつつあるが、原材料高騰や世界情勢

による影響で物価高が止まっておらず、我々の生活に大きなダメージをもたらしている。そんな中、自公政権は防衛費強化のためとし、増税を狙っている。また私たちの港

を兵站基地にすることも計画しており、それを許さない運動が不可欠だ」と話し

「神戸港湾としてKICTメガターミナル構想については雇用と職域を守るとの考えのもと協議してきた。引き続き皆様のお力添えをもらいながら運動していきたい」と力説されました。

議長団には海貨労連の倉

3面に続く



発言する井ノ元副委員長

2面の続き
 来賓には竹内全国港湾委員長、玉田全国港湾書記長、糸谷全国港湾顧問、港運同盟梶山委員長が出席され、それぞれあいさつがありました。
 2023年度経過報告、2024年度運動方針(案)を西澤事務局長、2023年度決算報告、2024年度予算(案)を飛田事務局長代理がそれぞれ提案を行いました。
 質疑討論に入り参加者から「ゲート滞留やヤード作業円滑化のためにCONPASが導入され、すぐにヤード内に入れるようになったがゲート内での労働者が少ないためゲートの中で混雑してしまう。それでは意味がない。神戸港湾はどう考えているか」との質疑がありました。それに対し、西澤事務局長は「阪神国際

港運同盟との間で、CONPAS運用の説明があり、そこでヤード内の問題が解決されていないことを訴えた。これからも声を上げていく」と答弁しました。
 また、吉岡議長も「神戸市港湾局とも懇談を行ったがウオーターフロント計画に力を入れすぎだと抗議し、まずは神戸港で働く労働者の福利厚生等を充実させるべきだと主張した」との答弁がありました。この答弁に関しては、多く見受けられました。議論が尽くし、採択の結果、全ての議題、そして提案された大会宣言(案)は参加者全員の拍手をもって確認されました。
 閉会あいさつで稲田副議長は「自動化ターミナルやこれから港湾にも導入されるであろうAI技術等、我われを取り巻く労働環境は厳しい状況ではあるが、組合員とその家族、そしてこれから働く若者が魅力ある港湾と考えるような職場づくりを目指そう」と参加者に呼びかけました。
 最後は吉岡議長によるファンバロー三唱で大会は終了しました。
 執行委員 坪井 雄志



全国港湾 竹内委員長

多種多様な車両の交通安全を学べる施設 クレフィール湖東視察 後編

研修施設の概要や講習内容の説明を受けたあと、実際に外周コースをセンコーの社用車に乗車させてもらい走行体験しました。外周は約940メートル、直線では時速80キロまで出せる設計となっています。
 今回の紙面にも記載しましたが、当日は大学生の研修プログラムが実施されて

奥には教習所とバンク



27°のバンク 想像以上の急角度!



2016年に設置された自動車教習所



様々な車両がそろっています

いるため、コースの中央部には入れませんでした。特徴ある外周コースを走行するだけでも貴重な経験となりました。
 特に、道路の横傾斜が27度あるコーナー(バンク)は普段の走行ではありえない体感を感じ取れました。走行中はまだしも、実際に車から降りて路面に立つ

と27度という横傾斜角度がいかにも急な角度であるかに驚きました。
 澁谷所長の説明によれば、自動車は左右共に35度以下の角度で転覆を起ささないことなどが義務付けられているとのこと。
 濡れた路面での緊急ブレーキを体験するコースも外周道路に設けられています。

指定教習所であるため、教習生は居住地にある運転免許試験場で技能試験を受ける必要がなくなり、効率的に免許が取得できます。
 また、今回見ることはできませんでしたが、別棟にてフォークリフト運転技能講習を毎月開催しており、学科講習と実技講習および修了試験でおこなわれているそうです。
 グループ会社はもとより、交通運輸産業で働くドライバーや労働者の一貫した安全教育・養成を一か所で完結できる施設は他にないとのこと、研修を通じての社会貢献や業界における事故低減に大いに貢献しているのではないかと感じました。
 2024年問題でクローズアップされているドライバー不足を補うために各企業も様々な対策を講じてい

ますが、ドライバー不足(減少)を解消するために、まずは労働条件の向上が第一です。「長時間働かなくても稼げる仕事」とまではならなくとも、安定して生活ができる労働環境でなくてはならないと思います。
 最後に、私はトラックドライバーとして高速道路を頻繁に走行していたので、阪神支部に加入する以前から名神高速上り線の八日市インターの先に大きな教習コースみたいな施設があるなど思っていました。訪れたこともなく、どこが運営する施設なのか、目的は何なのかなどまったく知りませんでした。
 労働組合に加入したつながりで、このような経験ができたことを感銘深く思いました。
 執行委員長 河野 照宣

カマヤん 善きかな幻聴 ありむら潜



1985年没の本田良寛院長のお説教がまた聞かされたのだ

新・大阪社会医療センター付属病院 釜ヶ崎の赤ひげと呼ばれ、「カマヤん」の名付け親である

青年部主催レクリエーション活動 ボウリング大会



参加者で集合写真

気合十分、優勝目指して！
レーンを超えてハイタッチ



西部長による始球式

9月28日、青年部主催によるボウリング大会を大阪市内で開催しました。このレクリエーション活動は、青年部のリスタートから長らく企画されながらも、コロナ禍などの事情により開催が見送られていました。今回ようやく開催に至り、阪神支部にとつてもしばらくぶりのイベントとなりました。当日は青年部メンバーや担当執行部を含め合計18名が参加し、日頃の業務から一時離れリフレッシュと交流を目的としたこのイベントは予想を超える盛り上がりを見せました。大会は、ランダムに選ばれた3人1組のチームで3

ゲームが行われましたが、個人戦形式のガチンコ勝負が展開され、白熱した戦いが繰り広げられました。その中でも特に印象的だったのは、ストライクやスパアを出したプレイヤーに対し、他のレーンを超えて拍手やハイタッチが飛び交うなど、温かい雰囲気の中でボウリングを楽しむことができたことです。初心者から上級者まで、すべての参加者が実力の差に関係なく楽しめるイベントとなりました。



結果発表——！！

大会の最後には表彰式が行われ、上位5名に入賞として、さらには下から2番目の成績だった参加者にはブービー賞として豪華な景品が贈呈されました。景品は中身が見えない封筒から選ぶくじ引き方式で、開封の瞬間まで大いに盛り上がりました。ボウリング大会を通じて、日頃あまり接点のない組合員の仲間同士が交流を深め、参加者全員が楽しんでボウリング大会を終えることができました。今回のレクリエーション活動は、リフレッシュの機会であると同時に、阪神支部の組合員同士が親睦を深め、チームワークが向上した貴重な場となりました。しかし、今回の参加者数は当初の見込みよりも少なかつたため、次回はさらに多くの人が楽しめるような魅力的な企画を考え、より多くの組合員が参加できる交流の場を作りたいと思います。

青年部副部長
村尾 祐紀



景品のくじ引き

分かるかな？



懸賞クイズ

魚が10匹も出てきて車がうまく進めない。
何の魚が出てきたでしょう？

次号にて680号、681号の当選者を合わせて発表します（680号の締め切り日が10月25日のため）。

681号の締め切り日は11月22日（金）です。
ふるってご応募ください。